

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表： 令和6年3月29日

事業所名 養老町そよかぜ高田教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	・来室後の荷物の始末や出席シール貼りの活動は終わり次第遊びスペースの方へ活動場所を移している。	・支援の人数が重なったときは、荷物スペースが窮屈になるため受け入れ人数に合わせて、パーティションで仕切って調節する。
	2 職員の配置数は適切である	5	2	・職員配置は基準配置数を満たし適切である。 ・グループ支援では活動内容や通級児の年齢、特性に応じて支援者の人数調整をしている。	・事業所間で職員配置に差がある。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	・通級児に物の置き場所や活動スペースが分かりやすいよう、パーティションやテープで仕切ったり写真で知らせたりしている。 ・個々の特性に合わせ必要に応じてマットを敷いたり台を置くなどの活動しやすい環境を整えている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	・生活空間を清潔にできるよう、週1回施設内外点検を行っている。室内だけでなく施設外の点検も行っている。 ・午前午後で1回ずつ、遊具、用具の消毒と換気を行っている。また、空気清浄器やサーキュレーターを活用し清潔を保っている。 ・支援の人数や特性、活動内容に合わせ、個別の部屋やパーティションで仕切り調節している。	・引き続き感染対策として清潔な環境づくりをしていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	・特にグループ支援では事前と事後に話し合いの時間を設けている。 ・個別支援計画作成ごとに振り返りや評価反省から、今後のねらいや支援内容を確認している。	・話し合いの時間が長くなりがちなので、要点を絞って進めている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	・通級児の保護者全員より、保護者向け評価を実施している。その結果から次年度の取組の課題を洗い出し業務改善できるようにしている。	・保護者アンケートより保護者の思いに沿った支援を提供していく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	・事業所向け自己評価を実施し、その結果から改善点を検討し、全職員で共通理解して取り組んでいる。 ・集計結果は、ホームページに公開するだけでなく、各家庭に配布し、事業所内にも掲示している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	0	・町内民生員の方に第三者委員の依頼をし承諾していただいている。また、重要事項説明に苦情相談窓口としての位置づけをしている。 ・苦情があれば情報をいただき外部評価をしてもらうことになっている。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	・療法師指導方法研究会・ネットワーク研究会を開催したり、療育スタッフ研修会に参加したりし、指導されたり研修会で学んだりしたことを職員間で共有し支援に取り入れている。	
適切な支援	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	・アセスメントから子どもの実態を把握し、課題や目標を検討している。 ・個別支援計画について保護者と話し合いをする中で、支援内容を説明したり、保護者ニーズを確認したりし、個々に合った計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	・子どもの成長の記録や相談票、医療機関からの指示書からも子どもの実態を把握している。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	・個別支援計画にガイドラインに準じた項目から一人ひとりに応じて具体的な到達目標や支援内容、配慮事項を検討している。 ・児童発達管理責任者と支援員との間で、それぞれの項目について話し合い、支援内容を設定している。 ・保護者の願いやニーズ、課題も組み込まれた内容になっている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	・個別支援計画をもとに、毎回の支援のねらいを設定し、それを達成できるような環境を整えて支援を行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	・全職員でグループ支援の活動内容、方法、流れを十分に検討し、グループ支援計画を作成している。さらに毎回のグループ支援ごとにも参加する子どもたちの特性から、配慮事項を職員で再確認している。 ・支援後には次への支援に繋がるよう振り返りを行っている。	

援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	・今年度の反省から次年度の年間グループ支援計画をもとに毎月検討し直し、子どもの成長や姿に合った内容を工夫している。 ・室内の活動だけでなく、実社会での経験も取り入れられるよう計画している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	7	0	・個別支援とグループ支援の割合や回数は、児の発達状態や実態に合わせて組み合わせ、個別支援計画を作成している。また、保護者との話し合いで共通理解している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	・支援開始前に、支援に関わる全職員間で、子どもの特性やねらいの情報共有をし、環境や支援方法を確認している。 ・支援の中で遊び、排泄、おやつなど活動がスムーズに進められるよう、職員間で事前に役割分担している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	・支援終了後出来る限り、職員間で振り返りながら良かった点、改善点を振り返り、次回支援に繋げている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	・毎回の支援の記録を残している。また、保護者へも書いて伝えている。 ・支援の振り返りの中で問題点を解決したり、ヒヤリハットを情報共有し、検証・改善に繋げている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	・個別支援計画作成の際、一人ひとりの成長を確認し、計画の見直しをしている。	・モニタリングや担当者会議が充実するよう、保護者との時間を更に大切にしていきたい。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	・サービス担当者会議には事業所として、児童発達管理責任者のみならず担当支援者も参加し、共通理解をしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0	・保健センターの乳幼児健診がきっかけの通級児は特に、連携をとって支援を行っている。 ・通級児の通う各園とは、園訪問や連携ファイルと通し、情報の共有をしている。 ・就学をひかえた児に関しては、必要に応じて保護者を小学校の訪問に同行し、小学校との連携も図っている。 ・子育てや子どもの成長に不安を抱える保護者の相談を受け、支援につながる体制を取っている。 ・教育総務課、健康福祉課、子ども課の各障害児担当者対象児の情報共有をしている。 ・教育総務課主催の新就学児巡回訪問や小中学校巡回訪問の一員として支援が必要な児童について関わっている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	0	・医療機関より指示書もらい、健康福祉課や保健センターと連携を取りながら支援を進めている。	・希望が丘こども医療福祉センターの訪問事業を受ける予定をしている。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	0	・医療的ケア児や重度心身障がい児の利用者はいない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	・保育園、こども園に入園や転園の際はスムーズに園生活が送れるよう、引き継ぎ書を作成し情報提供している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	・就学前に就学予定の小学校の情報を得るために、保護者とともに訪問に行っている。 ・特別支援学校からの案内を保護者に配布し、情報提供したり必要に応じ相談を受けている。 ・小学校へ引き継ぎ書を作成し、各小学校特別支援コーディネーター、特別支援担当者、保護者、児童発達管理責任者、担当支援者などで引き継ぎ会を開催し情報提供をしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0	・療法士指導方法研究会や地域システム支援事業を通し、医療機関からの助言を受けている。 ・他の児童発達支援事業所に通う児に対し、見学をさせてもらい情報共有を図っている。	・医療機関の小児リハビリを見学し、さらに助言をもらえる機会を増やしたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	0	・通級児のほとんどが町内の保育園、こども園に通園しており、また、子育て支援センターを利用していることから、障がいのない子どもと活動する機会がある。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	0	・自立支援協議会に児童発達管理責任者が参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	・毎回の支援ごとに、支援の様子を伝えながら日々の子どもの成長やそれに伴って出てきた課題などについて話し合い情報共有している。また、連絡ノートに記録として書き残し、内容の確認をしてもらっている。	

保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の支援後の話し合いの中で、育児についてや身につけると良いこと、家庭で取り組めることを話したり一緒に考えたりしている。</li> <li>・療法師指導方法研究会で受けた指導を参考に、一緒に確認しあったり考えたりしている。</li> </ul>	・ペアレント・トレーニングの知識を持つための研修会に参加したい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時に重要事項説明書の内容を詳しく説明している。</li> <li>・年度初めの保護者の会にて説明し同意書ももらっている。</li> <li>・運営規定を施設内に掲示し保護者の方に見てもらえるようにしている。</li> </ul>	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画内容話し合いの際、児童発達支援ガイドラインをもとに作成していることを照らし合わせながら説明し、保護者の同意を得ている。</li> </ul>	・個別支援計画の立て直しの際、事前にモニタリングを行いさらに内容を充実させたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の支援後、保護者との話し合いの中で気軽に話せる関係を持っている。担当支援者で答えられないときには室長が対応している。</li> <li>・個別支援計画内容の話し合いの際、困っていること、心配なことなどの悩みはないか尋ね、必要に応じて相談を受けたりアドバイスしている。また、良かったこと、嬉しかったことについても話し合っている。</li> </ul>	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者交流会、学習会を書面開催や個別相談会の形で開催した。</li> <li>・支援の送迎時、保護者同士の連携が取れるよう、仲立ちしたり一緒に話したりしている。</li> <li>・NPOクローバーの会行事への参加を案内し、児童発達支援事業所職員も同行している。</li> </ul>	・ペアレントメータの話し合いの場を作りたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段より気軽に相談できる雰囲気づくりをしていることから、保護者が必要に応じて室長や支援者に相談してもらっている。</li> <li>・保健センターの育児相談や保育園、こども園の中で支援が必要な児がある時には、児童発達支援事業所を紹介してもらったり情報提供をもらったりし、適切に対応できる体制を取っている。</li> <li>・気になる子への対応について、園からの相談に対し相談に応じたり必要に応じて園訪問をしている。</li> </ul>	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回そよかぜ通信を作成、発行している。行事に関すること、子育てに関する情報を、そよかぜ教室間で検討し発信している。</li> </ul>	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報に関する書類は鍵のかかる棚に保管し、取り扱いには十分に気を付けている。</li> <li>・個人情報を取り扱うときには、必ず保護者の同意を得ている。</li> <li>・個人情報に関する書類を破棄する時には、必ずシュレッターを利用し、シュレッターごみ収集に出している。</li> </ul>	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくり、丁寧に分かりやすく伝えるように配慮している。</li> <li>・図や写真等視覚情報を利用したり、必要に応じて紙に書いたりしている。</li> <li>・意思疎通の難しい児には、保護者を通して家庭での様子を聞いている。</li> </ul>	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会体験として施設外に出ることで地域の方と触れ合える機会が作れている。</li> <li>・家族支援研修会を、支援の中でできる範囲内に行い、保護者と一緒に参加できる場面を設けている。</li> </ul>	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種マニュアルを作成し職員間で周知している。また、施設内に掲示し保護者にも周知している。</li> <li>・各種マニュアルをもとに、発生を想定した訓練計画書を作成し、職員間で共通理解のもと訓練している。また、その様子を写真で掲示し保護者にも</li> </ul>	・水害時の避難場所への避難を年1回、感染症研修会を年2回行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震、火災を想定した避難訓練では、訓練当日に支援出席児にも保護者の了解のもと参加協力をしてもらっている。</li> <li>・消防署へ消防訓練を依頼し、指導を受けている。</li> <li>・心身障害者福祉センターとして福祉作業所と合同の訓練も行っている。</li> </ul>	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服薬や予防接種、てんかん発作などの情報は、相談票に記載してもらっている。契約時に再度詳しく確認し、全職員で共通理解を図っている。</li> </ul>	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーのある児に対し、医師より言われている除去する食べ物を職員全員で共通理解を図っている。また、食事指導室食器棚の扉に掲示し定期的に確認している。</li> <li>・年齢が低く、家庭で食べた経験のない物や、保護者に希望によっても除去している。</li> </ul>	

45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな怪我でも、ヒヤリハットを作成し、職員間で改善方法を検討している。</li> <li>・毎回の支援ごとに環境に危険箇所はないか確認している。</li> </ul>	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月末に虐待防止チェックを行い、虐待防止の意識付をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止につながるような場面があったときには、その都度検討会を開く。</li> </ul>
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束の必要な児はいないため、個別支援計画に記載していない。</li> <li>・本児の身体を守るために身体拘束がやめえない児がある時には記載していくことを職員で共通理解している。</li> </ul>	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。